

2011年4月1日

## **【社会調査士(第九回)】【専門社会調査士(第八回)】の科目認定に関する報告とお願い**

一般社団法人社会調査協会  
科目認定委員会 委員長 岩井八郎  
副委員長 後藤範章

このたびの地震により被害をお受けになった皆様に、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈りいたします。

科目認定委員会の報告が、例年より遅れましたことをお詫びいたします。

昨年12月20日締め切りで、2011年度および過年度（2000－2010年度）の科目申請をしていただきました、ありがとうございました。今回は、社会調査士の科目に181大学232機関（内、新規11大学11機関）、専門社会調査士の科目に55大学64機関（内、新規3大学3機関）からの申請を受理しました。申請科目数は、社会調査士科目で2340科目、専門社会調査士科目で236科目になっており、認定不可となった社会調査士の2科目を除く2574科目を認定いたしました。

当協会では、1月17日、2月21日、3月26日に科目認定委員会を開催して、慎重に審査を実施し、このたび、その認定結果を公表する運びになりました。ここでは、認定の過程で議論となりましたいくつかの問題点をご報告し、加えて「お願い」を記載しております。

### **1. 科目認定に関わる確認項目について**

A～F科目につきましては、これまで公表してまいりました各科目の確認項目に従って審査をいたしました。また、G科目につきましては、昨年公表いたしました確認項目に従って審査をいたしました。今年度の審査を終了いたしまして、一般的な問題として以下の3点を指摘させていただきます。

- (1) 審査では、各科目の＜確認項目＞だけではなく、パンフレットなどに記載されておらず、＜授業の内容＞が十分に満たされているのかについてもチェックしております。各科目に関する内容の「8コマ以上の授業」では、確認項目に掲げられている全ての項目が明記されているかに加えて、各科目の＜授業の内容＞がカバーされているかを審査しております。この点を十分注意していただきますようお願いします。
- (2) 今年度「再提出」をお願いいたしました授業科目説明書の中には、前年度とほぼ同じ授業であるにもかかわらず、＜確認項目＞の見落としのために、再提出としなければならなかったケースがありました。十分な注意をお願いします。

- (3) G科目につきましても、前年度と同じ内容の調査実習を実施される場合、調査実施の年月まで「前年」のままであるような、G科目説明書が今年もありました。G科目説明書を提出していただく際に、十分注意してください。

各科目の確認項目につきましては、依然として意味があいまいな点が残っております。来年度より、A,B,C科目につきましては、以下のように修正する予定です。またF科目につきましては、以下の要望がございます。

**A科目：**

- 「社会調査の意義と用途」を「社会調査の目的と意義」に変更する。

**B科目：**

- 「調査票・質問文の作り方」を「調査票の構成と質問文の作り方」に変更する。
- 「調査の実施方法（調査票の配布・回収法等）」を「調査の方法（実査の方法、調査票の配布と回収法等）」に変更する。

**C科目：**

- 「統計資料の整理（統計資料の収集と読み方）」を「統計資料の整理（既存統計資料の収集と読み方）」に変更する
- 「平均・分散・標準偏差」を「主要な記述統計量（平均、分散、標準偏差を含む）」に変更する。

**F科目：**確認項目は変更しませんが、次の点にご注意ください。

- 確認項目にあります各種の調査方法を授業において実施していただくことは大変望ましいことですが、授業内容の説明が一切なく、「会話分析」「エスノグラフィー」など、調査法を羅列するだけの記載が多くみられますので、改善をお願いします。
- 質的な調査の意義と特質を解説する授業をしていただき、単なる実習や演習のみに終わらせないようにお願いします。
- 「エスノメソロジー」など、単一の調査理論と方法だけを扱うのではなく、授業では2つ以上の調査法を扱うようにお願いします。

## 2. お願い

- (1) 「調査実習：概要報告書」の公開（HP 上）について

「調査実習概要報告書」は、2007年からウェブ上で公開しております。そのねらいは、他の大学がG科目にどのように取り組んでいるのかについて情報がほしいという教育現場からの要望に応えるためです。また、ウェブ上で公開することにより、科目履修者や他の科目担当教員による公のチェック機能を活用して、調査実習の質的水準の向上をはかるためです。

(2) 「調査実習：概要報告書」のご提出方法について

WEBシステムでのご提出が可能となっております。科目申請時に使用したIDとパスワードでログインができます。

〈調査実習概要報告書提出機能マニュアル〉

[http://jasr.or.jp/content/participate/documents/ghoukoku\\_webmanual.pdf](http://jasr.or.jp/content/participate/documents/ghoukoku_webmanual.pdf)

**<受付期間>** 2011年4月1日～5月2日

(3) 「調査実習：成果報告書」のご提出後の取扱いについて

ご提出いただきました「調査実習：成果報告書」につきましては、科目認定委員会で慎重に検討し、次のように取り扱うことにいたしました。

◇社会調査の成果を広く社会に還元し知的共有財産とすることは、当協会の基本理念に合致いたします。2007年度以降の「調査実習：成果報告書」で、「冊子体として印刷・製本されている成果報告書」につきましては、原則として、国会図書館に寄贈し公開いたします。一定期間（1年間程度）、事務局で整理・活用・保管した後で、一括して国会図書館に寄贈します。

◇何らかの事情で国会図書館に寄贈し公開できないと判断される成果報告書につきましては、「国会図書館への寄贈辞退届」を該当する成果報告書に添えてご提出下さい。そうしたケースに限って対象外といたします。「国会図書館への寄贈辞退届」につきましては、当協会のホームページに掲載しております。科目ご担当の先生が、適宜ダウンロードして、ご提出いただけますと幸いです。2011年5月2日までにお知らせいただきますようお願いいたします。

◇「冊子体として印刷・製本されている成果報告書」以外の提出物、「国会図書館への寄贈辞退届」によって申し出のありました報告書は、保管場所の関係で、一定期間（1年間程度）事務局で整理・活用・保管した後で、科目認定委員会の責任で廃棄処分させていただきます。

◇2010年度分の「調査実習：成果報告書」のご提出〆切は、2011年5月2日です。

(4) 提出期限厳守について

今回も、科目認定申請の締め切り日が守られないケースがありました。認定作業を慎重に進めていく関係上、締め切り後の申請は認定作業の進行に影響をもたらします。認定委員会として、こうしたケースには次年度以降に過年度の科目認定として申請していただくことにしておりますので、ご了承ください。

連絡責任者の先生方には、様々な点でご負担をおかけしております。科目認定の運用の仕方については、今後も、連絡責任者の先生方のご意見やご要望を十分にお聞きしながら、よりよい科目認定の方法を検討していきたいと考えております。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

<提出物一覧> 再度、ご確認ください

ご提出いただくもの	受付期間・締め切り
<p>2010年度開講認定G科目 調査実習：概要報告書</p>	<p>2011年5月2日（月）まで</p>
<p>2010年開講認定G科目 調査実習：成果報告書（成果物）</p> <p>※国会図書館への寄贈を辞退する場合は 「国会図書館への寄贈辞退届」を同封の上、ご郵送ください</p>	<p>2011年5月2日（月）まで</p>